

第5学年 道徳学習指導案

平成28年6月29日(水) 第5校時

- 1 主題名 自分の心に誠実に 1－(4)
- 2 資料名 手品師 (出典 「みんなのどうとく」学研)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目1－(4)は「誠実に、明るい心で楽しく生活する。」をねらいとしている。これは、中学年の「過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する。」を受け、中学校の「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。」へと発展していく。

人間にとって誠実に生きることは、自分自身に向けられた大きな課題であり、高学年の段階においては、自分に対する誠実さを高めていくことが大切である。自分の心に正直に、他人に誠実に行動することは、お互いの信頼関係を深め、明るいよりよい社会をつくる上で大切なことである。自分の心に対していつも誠実に行動し、明るく快活に生活していこうとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

児童は、友達との関係で、集団生活の中では他人の行動や考えに左右されたり、自分の利害関係にとらわれて、うそをついたりすることもあり、自分の生き方、在り方を支えていくような信念が確立されていない状況にある。

本学級の児童は、男女ともに明るく、相手のよさを認め、お互いに協力し合うことができる。しかし、教師に注意を受けたり、何か失敗したりすると、自分の立場が不利にならないよう責任を他人に転嫁したり、その場しのぎの言い訳や嘘を考えてごまかしたりすることもある。そこで、自分の言動に責任をもつことの大切さや、誠実な心で人に接することができるよう指導してきた。

本授業を行うにあたって、以下のような意識調査を実施した。

【意識調査結果 5月25日 実施】

- | | | | |
|---|---|-------|--------------|
| 1 | 2つのうちの、どちらか1つを選ばなければならないとき、あなたはどんなことが多いですか。 | | |
| | ・すぐにどちらかを選べることが多い。 | 40.6% | |
| | ・迷ってしまい、なかなか選べないことが多い。 | 59.4% | |
| 2 | どちらかを選んだ後は、どんな気持ちになりますか。 | | |
| | ・すっきりして嬉しい | 50.0% | ・モヤモヤする 9.4% |
| | ・本当によかったのかなと悩む | 21.9% | ・後悔する 3.1% |
| | ・不安になる | 15.6% | |
| 3 | 今まで、どちらか1つを選ばなければならないようなことがありましたか。 | | |
| | ・ある | 90.6% | ・ない 9.4% |

4 「ある」と答えた人に聞きます。それはどんなことでしたか。

・習い事に関すること	28.1%	・食べ物に関すること	15.6%
・買い物に関すること	21.9%	・出かける場所に関すること	12.5%
・遊ぶ内容に関すること	21.9%	・洋服や靴に関すること	9.4%

上記の意識調査の結果から、今までにほとんどの児童が、どちらか1つを選択する場面を経験している。また、どちらかを選択した後、半数の児童は、すっきりして晴れ晴れとした気持ちになると答えているが、これによかったのか悩むと答えている児童も半数いる。

これらの意識調査の結果を踏まえ、本時では、後悔しないためには、自分の心に正直に生きることの大切さと、さらに相手のことを考え、相手に対していつでも誠実な心で接することが結果的に、自分の心を明るくすることに気づかせ、誠実に明るい心で生活するための判断力を育てたい。

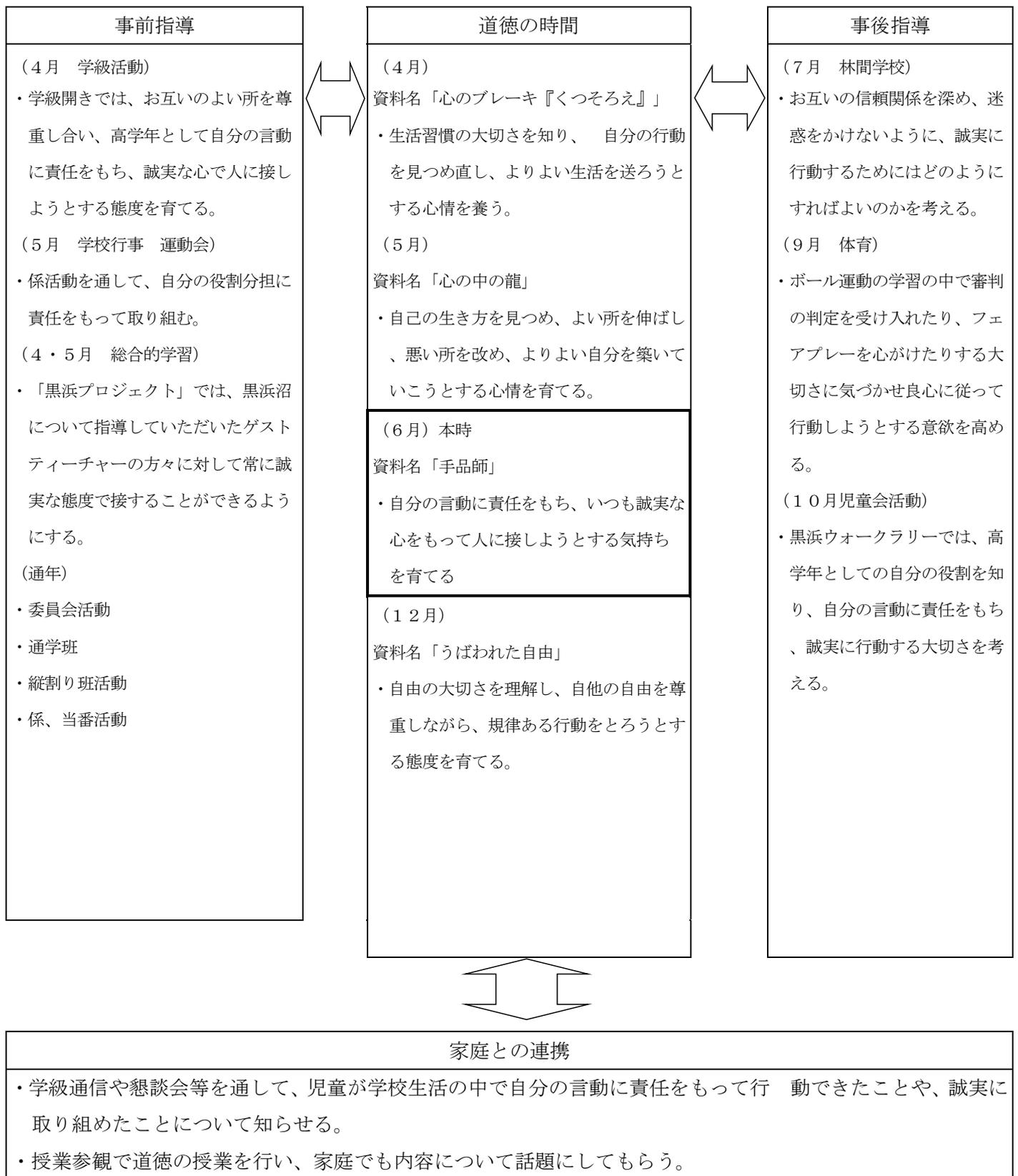
(3) 資料について

本資料は、腕はいいがあまり売れない手品師の話である。主人公の手品師は、出会ったばかりの男の子を手品で励まし、翌日もその子と会う約束を交わす。ところが、その日の夜、手品師に大劇場のステージへの誘いが舞い込む。迷いに迷った手品師は、結局友人からの誘いを断り、翌日も小さな町の片隅で男の子1人を相手に次々と素晴らしい手品を演じるという内容である。

本時では、話し合いを中心にした授業展開を考え、資料を最後まで読まずに、手品師が「男の子と交わした約束を守るのか。」それとも、「自分の夢である大劇場のステージに立つことを選ぶのか。」という心の葛藤場面までとする。そこからは、手品師を自分に置き換え、自分が手品師だったら、どちらを選択するのかを考えさせたい。この時、なぜそのように選択をしたのか決断理由を表現することで、自分の正直な気持ちに気付かせたい。そしてさらに、自分がどちらか一方を選んだことに迷いはないか、児童の心に揺さぶりをかけ、決断したのに気持ちがすっきりしないのはなぜなのかを話し合わせることで、男の子や、友人に対して自分がとるべき行動や、どんな対応をしなければいけないかを考えさせる。そして、相手の気持ちを思いやること、相手に対して誠実になることが大切であることに気付かせていきたい。手品師にとっての夢の実現は人生の大きな目標であるがゆえに、そう簡単に投げ出せるものではない。しかし、男の子との約束も守りたい。後悔しないために、自分の気持ちに正直に選ぶことの大切さと、相手に対する誠実さの両方がそろった時に本当にすっきりした気持ちになることに気付かせたい。自分の言動に責任をもつことの大切さや、誠実に生きることの素晴らしさを感じ取らせるとともに、誠実に明るい心で生活しようとする心情をこの資料を通して育てたい。

「見つめる」段階では、気持ちよく過ごすためには、どんなことが大切なのか本時の学習で学んだことを書くことで、今までの自分を見つめ直し、これからは、どんな時も自分に正直に、相手に誠実な心で接してしていこうとする価値や信念をもたせていきたい。

4 他の教育活動との関連



5 本時の学習指導

(1) ねらい

自分の言動に責任をもち、いつも誠実な心をもって人に接しようとする心情を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点(評価方法)	時間 資料
導入	<p>1 資料「手品師」について知る。</p> <p>・登場人物の条件・状況を知る。</p> <p>・資料の前半部分の読み聞かせを聞く。</p>	<p>登場人物： 手品師 小さな男の子</p> <p>条件・状況：手品師は、うではいいが、あまり売れない。 大劇場に出るチャンスが来るが、男の子と手品を見せる約束をしていたため、迷う。</p>	<p>・登場人物、条件・状況をしっかりおさえる。</p> <p>・手品師の思いを感じながら聞くようにさせる。</p>	5分 短冊 資料
展開	<p>2 主人公の手品師の思いを中心に話し合う。</p> <p>○男の子にまた来ることを約束した時、手品師はどんなことを思っただろう。</p> <p>○友人から大劇場出演の依頼を受けて「迷いに迷った」手品師。自分だったらどうするか考えよう。</p>	<p>・自分の手品で、明るさを取り戻せてよかった。</p> <p>・明日も手品を見せてやり、もっと元気になってほしい。</p> <p>男の子のところに行く</p> <p>・もっと元気づきたい。</p> <p>・自分の手品を楽しみに待っている。</p> <p>・「きっと行く。」と言った約束を破るわけにはいかない。</p>	<p>・自分の手品を見て、喜ぶ男の子の姿に、自分も嬉しくなる手品師の心に共感させる。</p> <p>・友人からの電話に、男の子のところに行こうか、大劇場に行こうか、と迷っている手品師の心の葛藤について、共感させる。</p> <p>・2つの選択に対して、どちらの思いが強いのか、判断理由に焦点を当てて考えさせ、ワークシートに書かせる。</p>	27分 場面絵 短冊 課題 場面絵 短冊 ワークシート

終末	あなたのため	4 教師の話聞く。	・これからは自分のことだけでなく、相手のことも考えて行動しよう。	・相手に対して、誠実に対応することの大切さを話し、印象深くしめくくる。	3分
----	--------	-----------	----------------------------------	-------------------------------------	----

6 評価の観点

○児童側の観点

- ・手品師の気持ちに共感し、自分なりの考えをもつことができたか。（発言・観察）
- ・自分の言動に責任をもち、どんな時も誠実な心をもって生活しようとする思いを高めることができたか。（ワークシートの記述・発言）

○教師側の観点

- ・児童が手品師の気持ちに共感できるような授業の展開ができたか。（発言・観察）
- ・話し合い活動は児童の考えを深め、友達の考えを知るために効果があったか。（ワークシートの記述・発言）

7 板書計画

